

新山協ニュース

△ 発行者 鈴木敏雄 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428



新潟県役員・選手団

第42回北信越ブロック 記念大会 報告

国体委員長 吉野良介

去る7月25日・26日、福井県永平寺町で行われた。と
思ったが、福井を除いてそ
うでなかった。本県は若を始
めてまもない選手であったが、
練習の成果が上り3位入賞し
た。

今日は記念大会と云うこ
とで、成年組は登攀、少年組
が踏査の2種目だけで、ルー
ルは2巡目京都大会ルールに
従って実施された。本県チー
ムもフルエントリーして良く
健闘し、全種別入賞をはたし
ました。

◎新潟各チームの寸評
・成年男子
登攀だけのため各県ともポ
ルダー系の選手を出して来る
チームで予想通り1位になっ
た。今年経験者が出場出来たの
で長野と互格に戦えると思っ
たが、競り勝って初めての栄
冠を手にした。

・少年男子

技術、体力ともそろった好
チームで予想通り1位になっ
た。

◎新潟県選手・役員

成年男子	監督	石山 晨嗣	笹神うすゆき山の会
	選手	苅部 一雄	"
	"	五十嵐和則	三条秀峰山岳会
成年女子	監督	高橋 秀樹	デラシネ山の会
	選手	後藤 邦子	悠峰山の会
	"	松木智恵美	新井. A. C.
少年男子	監督	中田 亮一	新発田高校
	選手	中野 洋	"
	"	小菅 剛	"
	"	仲川謙一郎	"
少年女子	監督	帯刀 勤	"
	選手	本間 雅美	"
	"	鈴木 優子	"
	"	佐藤 由理	"
審判員	踏査	森 任一	長岡ハイキング
"	登攀	高橋 一郎	新潟山岳会

った。これで2年続くので来
年はきびしい追い上げを受け
るだろう。

・少年女子

登山を始めてまだまもない
選手達だが良くガンバッタ。
標高差も急な降り道も明るい
チームワークで乗り切り3位
入賞。

今大会は本国体がないため、
盛り上りが少ないと思われた
が、予想外の盛況で、長野成
男の現地入り4回を頭に
各県とも熱が入って、特に石
川は66団体を控えてか少年の

福井・北信越国体に参加して

成年女子 後藤 邦子

早いもので私が国体に関係
してから4年になる。最初の
2年間は選手、去年がコーチ、
からには勝ちたかった。

そして今年また選手になった。
自分が精一杯やれば悔いはな
いという気持ちに、勝ちたいと
いう欲求が加わったのは2年
目くらいからだろうか。今年
は本大会がなく種目も登攀だ

活躍が目立ち、常勝長野少年
は共に4位に後退した。各県
とも事情は似たような状況に
あるが、出て来る選手は皆な

ほんとうに一生涯懸命張って
下さるので頭が下ります。
選手、監督、コーチの皆さ
ん、県予選からの長い間ほん
とうに御苦労様でした。あり
がとうございました。

また、藤井常任理事より特
製Tシャツの寄贈を受け、選
手の気持ちも高揚した中で大会
に臨むことができました。紙
面を借りて厚くお礼申し上げ
ます。

張感はどこかに行ってしまった
たようだ。無心状態になる。
今大会から登攀は2人になり、
トップは去年の選手の松木さ
ん。心強いトップだ。少し緊
張しているみたいだが、上手

に登っていく。4つのランニ
ングビレイも間違えずにかけ
ていった。：ビレイ解除：ザ
イルアップ：ストップ：登っ
てよし：いくよ：一番苦手な

所もスムーズに登れた。これ
なら大丈夫だ。ビレイを回収
しながら登っていく。最終地
点のテープにセルフビレイを
かけて終了。

国体は山ではない。競技だ
と思っている。私が普段慣れ
親しんでいる山とは全く違う
ものだ。でも一つの目標に向
かって、自分もこれだけ一生
懸命になれたという充実感、
人と人とのふれあいの優しさ、

素晴しい人達との出会い、そ
して感激——山と同じように、
私にいろいろなものを与えて
くれたということは確かであ
る。

成年男子 3位
成年女子 1位
少年男子 1位
少年女子 3位

「やったー」「よかったね」の人達に心から感謝します。
「おめでとう」そんな声があ
りがとうございました。
だます。みんなで喜び合え
(悠峰山の会)

第42回国民体育大会記念

北信越ブロック

山岳競技大会に参加して

成年男子 荻部 一雄

山というものに魅かれる以
週充実した山行ができたこと
前、偶然、中学生のとき、ひ
は、たいへん自分のためにな
とりのクライマーの映画を観
たことがあった。大岩壁の中

で格闘するその姿は、私の胸
を熱くさせたまま、今でもそ
の姿が思い出される。その映
画の題名は、『天と地の間に』
クライマーは、ガストン・レ
ビュファその人だった。
まさか私が岩登りを始め、
大会に出ようとは自分自身夢
にも思っていなかっただけに、
驚きであり不安でもあった。
5月10日の予選から始まり、
大会の7月26日までの約2ヶ
月半、強化練習も楽しく、毎
が、山への思いは以前に

また『スタート5秒前』の
壁を見上げるときの張りつめ
た気持ちは何とも言えず、全
力で挑んで到達できる喜びは、
言葉では言い表わせないもの
があり、山への思いは以前に



成年男子登攀競技

も増して大きなものになってきたようである。
最後に、国体関係者はじめ各山岳会のみなさまには、多くの御助力をいただき、(結果はいうまでもなくすばらしい)

いものであった。(心からお礼を申し上げ、報告にかえさせていただきます。)
ありがとうございます。

(笹神村)

うすゆき山の会)

地元の山紹介

とろっこ山の会

岩崎 功

鉾ヶ岳(1316M)

……しゃくなげ群生地

最近地元の有志が、昔の炭焼きの道を部分的に利用して作った、早川谷の吹原から鉾ヶ岳へのコースを紹介します。他のコースに比べて楽に登れるのではないかと思います。しかし今のところ道標類は何も有りません。鉾ヶ岳は一応独立峰なので頂上からは360度の展望で、南には火打、焼。西には、海谷山塊。北は佐渡と眺めはすばらしいし、又コースさえ選べば汗を温泉で流して帰れます。

わかりにくくなるかもしれない。この時には上に向かって右手の雑木との境をのぼる。20分程で道は雑木の中の登りとなり。高度をかせぐとトラバースぎみに鞍部へ、鞍部より能生側を登るようになるが又尾根道となる。大平からの道と合流すると頂上まで2/3分である。

じのある、健脚向のコースです。ただし雨の降っている時はだめです。
梶山新湯をでて薬師尾根コースの入口を過ぎ、1000M程で対岩の崩壊している、鉱度倉沢を渡る。50Mほど登るとブナの林の中を通り、あとは草、雑木の中をすこしずつ高度を上げながら、1時間程で鋸山との分岐点にでる。右へ見通しのきかない林のなかを約1時間程で両側のスカッとした尾根を行くようになる。いくつもの岩峰を越えて、1時間半程で大曲に着く。湿地を通り40分程で笹平、すぐに小谷温泉への分岐、また少し行くと梶山新湯から薬師尾根の道と合流し20分程で山頂となる。(梶山部落より、冷清水を過ぎ大崩の上まで車道が出来ましたが、現在車は乗り入れられません。以前の駐車場の処にクサリが張ってあります。古い登山道は利用できないので、車道を歩くよりしかたがありません。)

頸城鉄道のバスを音坂で降り吹原部落への道を登る。部落を過ぎ車の通る農道を約1時間で用水の所へ出る。ここから頂上まで2時間半もあればいい。杉林の中を1000Mほど行くと昔のたんぼの跡に出るが夏草の茂ったところ道が

帰りは能生側へ、権現を通り柵口の露天風呂に入ってもいいし、又大沢岳を通って島道鉱泉へ降りてもいい。どのコースも2時間少々でありられる。

雨飾山(1963M)

日本百名山

百名山の一つである雨飾山への梶山新湯からのコースのなかで、遠回りになるために利用されていませんが、薬師尾根コースとはまた違ったあ

かたがあります。

日山協

自然保護

指導員について

このことについては既に昨年春より制度設置が決定され別紙要項規定で進めて参りました。県山協では協会名簿に載せました様な人数(53名)で、61年度内にお陰様をもちましてスタートする事が出来ました。その趣旨に添って皆様方のご活躍をお願いすると共に。ご協力頂いた方々も、今後共宜しくお願い申し上げます。

昭和62年度

地区別審判員研修会開催 案内

標記研修会を下記の通り開催致します。今回は2巡目以降の競技規則基準改訂への対応を内容とした研修会で、実技研修を予定しております。

既修得審査員は更新と技術の研鑽、資質の向上に、また指導員で未修得の方は競技登山に理解をいただき、ご参加をお願いします。

期日 昭和62年11月7日(土) 8日(日)

会場 〒957 新発田市大字五十公野字瀧尻4475

新発田市青年の家

電話 0254-2315840

日程 1日目(7日) 受付14:30 研修会15:00 懇親会18:30

2日目(8日) 朝食7:00 研修会8:00 まとめ13:00 解散14:00

登攀競技実技会場 新発田市赤谷 内の倉ダム 杉滝岩

追伸 国体審判員有資格者は認定証を持参ください。

認定証を持参ください。

認定証を持参ください。

認定証を持参ください。

認定証を持参ください。

認定証を持参ください。

資料を取り寄せるので申込みは厳守すること。無断取り消しの場合、費用負担あり。

費用 参加費10000円 資料代10000円 一泊三食懇親会6000円

あとがき



読書は万能の基

新潟市営所通1-301

学生書房

電話 025-222-9870番

教習種目 大型・普通(第1種) 大特 白二輪・身障者用各種自動車

中条自動車学校

北蒲原郡中条町大字高野字茨島

中条 (0254)44-8071

社長 高野 愛子